

県医師連盟機関紙

第16号

発行責任者
県医師連盟委員長 池田琢哉

平成28年2月22日

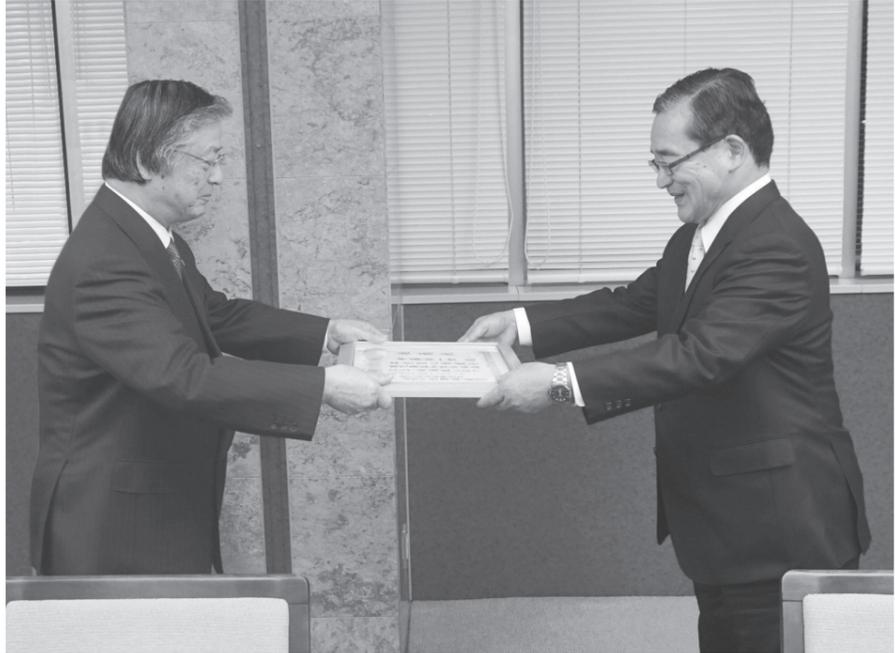
鹿児島県医師連盟新聞

編集・発行
鹿児島県医師連盟
鹿児島市中央町8-1
電話 099-213-1011
FAX 099-213-1012
印刷 南日本新聞開発センター

知事候補に現職の伊藤氏推薦



伊藤知事の推薦について説明する池田委員長



伊藤知事に推薦状を手渡す池田琢哉鹿児島県医師連盟委員長

3期12年の実績を評価

2016年7月27日の任期満了に伴う鹿児島県知事選挙で、鹿児島県医師連盟(池田琢哉委員長、800人)は、4期目を指して立候補を表明した。現職の伊藤祐一郎知事(68)の推薦を決めた。昨年11月26日の連盟執行委員会、伊藤知事に対する出馬要請と、立候補を表明した場合の推薦を決議していた。12月2日の県議会での正式な立候補表明を受けて、同日、池田委員長が伊藤知事に推薦状を手渡した。推薦の理由について、池

田委員長は「行財政改革などこれまでの12年間の実績を評価した結果だ」と述べている。公選制後の知事7人のうち、4選を目指す知事は初めて。これまでの3回と同様、無所属で立候補する。今回の知事選には、いまのところ、伊藤氏のほかに、指宿市出身のテレビ朝日コメンテーター、三反園訓氏(57)Ⅱ東京都Ⅱが出馬の予定。ほかにも、県政刷新の立場で、立候補を模索する動きがある。



これからも強力な連携を

伊藤知事は12年間知事職に就かれたわけですが、行財政改革等、すばらしい仕事をされてきました。それを高く評価したいと思います。私も県医師会、地域医療構想、あるいは地域包括ケアシステムの構築、在宅医療の充実をはじめとして、医師、助産師、看護師不足対策などたくさん課題を抱えております。そ

のことに关しても、深くご理解いただきまして、協力いただいております。これからも我々と強力な連携を持って、県政のトップリーダーとして県民のために活躍していただければと思っております。7月の選挙へ向けて連盟会員のご支援を宜しくお願いいたします。



一体となつて、 県民の医療を守る

今回もこのような形で、推薦を頂きます。誠にありがとうございます。今医療制度が大きく動いております。地域医療構想とか、包括医療システムとか新しい仕組みをつくらなければならない、そういう時期ではないかと思えます。それには、皆さん方と一体となって動かないと県民の医療は確保できないと思っております。皆様には日頃から鹿児島県民の医療の確保のために、最大限の

努力をしていただいておりますが、これから大きく制度が変わるなかで、県民の医療をいかにして守るかというの、県政の最も大きな課題でもあります。皆様方と色々な打ち合わせをしながら、進めて参ります。7月の選挙に向けて徐々に体制を整えていきたいと思いますので、ご支援よろしく願います。

伊藤知事 かしまの将来ビジョン策定

伊藤知事は出水市出身。旧自治省に入省後、大臣官房審議官、自治大学長、総務省大臣官房総括審議官などを歴任した後、2004年の知事選に立候補し、新人3氏との激しい選挙戦を制して、初当選を果たした。知事就任後は、行財政改革と取り組み、財源不足などの課題を解消した。多子世帯等への保育料減免制度を導入したほか、「3つの安全」をキーワードとして掲げ、医療サービスの充実にも努めた。平成20年には、概ね10年程度の中長期的観点から鹿児島県の在るべき姿や進むべき方向を「かしま将来ビジョン」として策定。「生涯を通じて安心して暮らせる社会づくり」など10項目の挑戦課題を掲げ、取り組んでいる。

14年には九州電力川内原発の再稼働を容認したほか、15年7月には、長年努力してきた「明治日本の産業革命遺産」の世界文化遺産登録を実現させた。



自見氏を紹介する池田委員長

自見はなこ氏 全国行脚 鹿児島では離島へも 政策提言に共感の声

2016年7月に行われる参院選に、日本医師連盟(横倉義武委員長)から比例代表候補として推薦を受け、自民党から立候補する自見はなこ日本医師連盟参事、推薦を受けて以降、後援会活動の一環として、全国各地を訪問、政策を訴えている。昨年の8月下旬には、47都道府県すべての訪問を終え、2巡目、3巡目の行脚に入った。

鹿児島県医師連盟(池田琢哉委員長)は、2014年11月の執行委員会で自見氏の推薦を決め、後援会活動に力を入れている。自見氏は鹿児島県をこれまで6回訪れ、池田委員長らと離島をはじめとして、県内を精力的に回りながら、郡市医師連盟や、医療機関の関係者との交流を深めている。

自見氏は「医師としてだけでなく、広く社会のために働き、医師と社会を繋いでいきたい。医療・介護を取り巻く諸課題に医療界全体で取り組み、私もその一翼を担いたい」と訴える。一方支援する側の池田委員長は「我々の政策を実現するには、政治との関わりが重要だ。自見氏と同行して回ったが、まじめで、医療にかける情熱が伝わってくる。政策提言に共感の声も多く、私も、政策と人柄を高く評価したい」と話している。

自見氏は長崎県佐世保市生まれで、東海大学医学部を卒業後、東京都内病院勤務や、父・自見庄三郎氏の議員秘書を務めた。現在は都内の病院の小児科非常勤勤務医で、東京都医師会会員。NPO法人日本子育てアドバイザー協会理事など勤めている。趣味は、マラソン、読書、旅行、神社・仏閣めぐり。好きな言葉は「一生懸命」。



医療機関であいさつする自見氏



自見氏は県全体でこれまで医療機関等60カ所を訪問

自見はなこ氏の政策

- 誰もが安心して医療・介護・福祉が受けられる社会を！
～必要な医療・介護・福祉が過不足なく受けられる社会をつくります～
- 医療・介護・福祉の立場でまちづくりを！
～地域に密着した保健・医療・介護提供体制をつくり、地域包括ケアシステムの構築を進めます～
- 子ども・子育て支援、女性の力がさらに発揮される社会を！
～医療・介護分野でも、より女性の力が発揮できる社会をつくります～



自見はなこ Facebook ページオープン!
<https://www.facebook.com/hanakojimi>

